

# 月刊 水試ニュース

発行所：愛知県水産試験場（本場）

514号 令和元（2019）年5月

## 耕うんによる碎石覆砂の機能維持について

漁業生産研究所 栽培漁業グループ

愛知県のアサリ資源は近年、大きく減少しており、水産試験場ではその回復策の一つとして漁場に粒径の粗い 2-5mm 程度の砂利や碎石を撒いて、アサリを保護する「碎石覆砂」の技術開発に取り組んでいます。

碎石覆砂等によりアサリ放流稚貝の生き残りが良くなることはこれまでも紹介しました（水試ニュース 490号）が、覆砂した碎石に砂が被るとアサリの保護機能が低下してしまう点が課題となっています。そこで、水流ポンプを用いて底土を耕うんし（図 1）、その効果を調べました。

試験は、平成 28 年度に厚さ 10cm で砂利を覆砂した試験区で行いました。コアサンプラーを用いて深さ 20cm までの底土を採取し、5cm 毎に層別に分けてふるいにかけて、砂利や砂の割合（粒度組成）を分析しました。耕うん前の平成 30 年 8 月には、砂利の上を砂が覆っていましたが、耕うん直後の 10 月には砂利が表層に現れ、12 月も同じ状態が維持されていました（図 2）。このことから、水流ポンプを用いた耕うんにより碎石覆砂の機能回復に効果があると考えられました。

今後は、この結果を踏まえ、より大規模な造成漁場を想定して、日頃の操業を通じて実施できるように、漁具等を用いた碎石覆砂の効果的な維持管理方法について、検討していきたいと思っています。



図 1 耕うん作業の様子

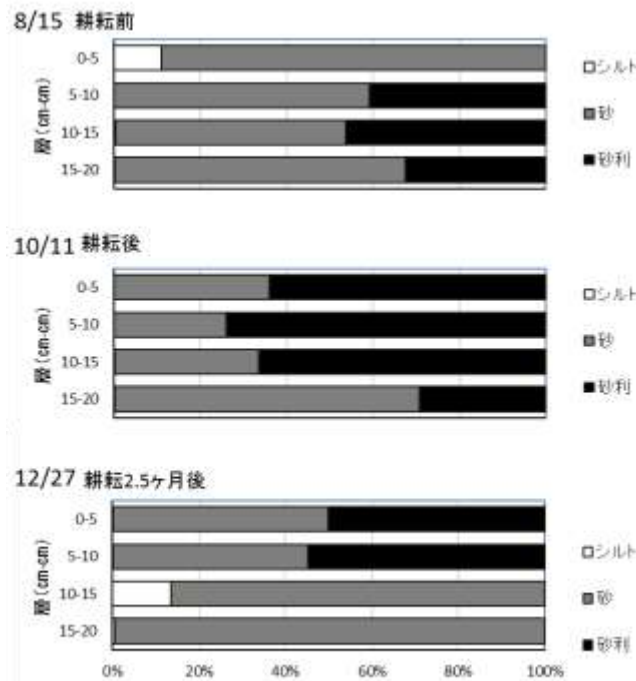


図 2 碎石覆砂試験区の層別粒度組成

## 今年の矢作川天然遡上アユの状況

内水面漁業研究所 内水面養殖グループ

当グループでは矢作川に遡上する天然アユについて、藤井床固（河口から約 13km 上流にある堰）で調査を行っています。

これまでの調査データをもとに天然遡上アユの平均体重の推移を、右の図 3 に示しました。○は 2018 年、●は 2019 年の調査時の平均体重を、曲線は 2014～2018 年までの過去 5 カ年の平均（近似曲線）を示しています。

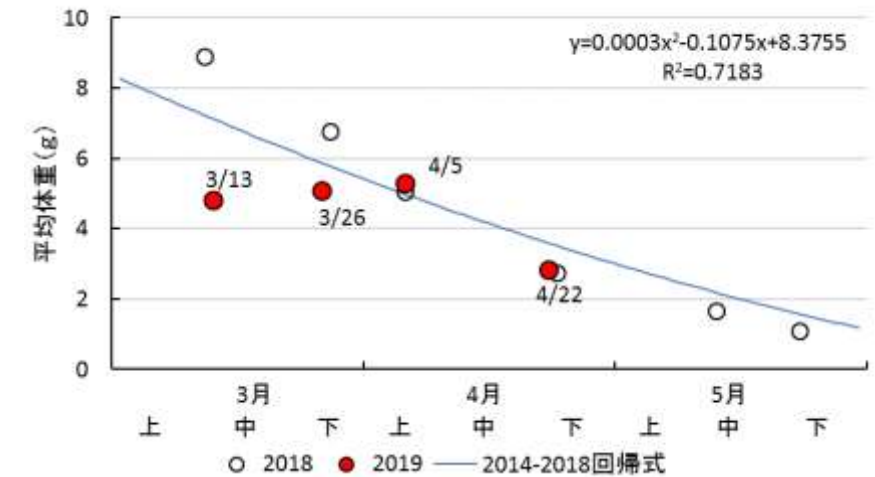


図 3 矢作川遡上アユの体重推移

今年の 3 月中旬の遡上アユの平均体重は 4.90g で、昨年同期の 8.89g より小さかったものの、4 月上旬ごろからは昨年同時期と同等の大きさのアユが上り始めました。遡上量は、今年の明治頭首工のアユの遡上の様子から、4 月 25 日までの時点では昨年度の 1/5 と少ない（矢作川天然アユ調査会調べ）状況です。矢作川の早期遡上魚は小さく遡上数も少なかったため、友釣りの序盤は、大型で放流される人工産アユの釣果に期待したいところです。

## 愛知の水産研究活動報告会のご案内

本場 企画普及グループ

愛知の水産研究活動報告会は、漁業協同組合の青年部、研究グループ及び漁業士などの漁業者が参集し、日ごろの研究活動や成果等の発表を通じ、相互の知見の交換や活動意欲の向上を図るとともに、併せて活動成果の普及を図ることにより、本県水産業の振興に寄与することを目的として毎年開催しています。本年度は、下記のとおり開催しますので、ぜひご参加ください。

記

日時：令和元年6月8日（土）午後2時から午後4時まで

場所：愛知県水産会館 5階 大会議室

名古屋市中区丸の内 3-4-31

主催：愛知県、愛知県漁業協同組合連合会

後援：愛知県信用漁業協同組合連合会、公益財団法人 愛知県水産業振興基金

報告内容（予定）

- ・被覆網を活用したアサリ資源保護の取り組み（常滑漁協青年部）
- ・潮干狩り場における囲い網及び被覆網によるアサリの保護（東幡豆漁協）
- ・竹島地先におけるアサリ天然発生稚貝の生残状況について（東三漁青連）

体験発表・話題提供（予定）

- ・ウナギの完全養殖への挑戦（三谷水産高校）

